

漢字の理解度からみる現大学生の適切な生活習慣

長野 将人（文教大学情報学部メディア表現学科）

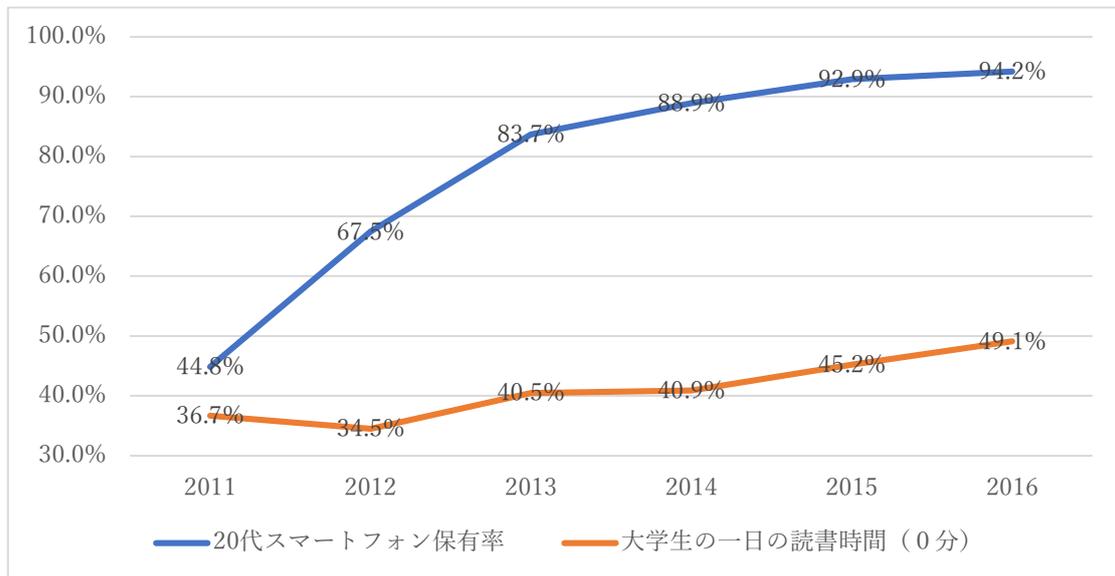
1. はじめに

本稿は、“生活習慣”と“漢字の理解度”の関係性について、文教大学の学生を対象に、紙面の調査票を用いた集合調査を行い、それらを統計的に分析する方法を用いて、識字率（＝漢字テストの得点）と生活習慣の関係性という観点から、各媒体との付き合いがどのように識字率に影響するかを考察し、「漢字の理解度からみる現大学生の適切な生活習慣」について検討するものである。

近年では、スマートフォンやゲーム機を含める様々な媒体が個人で利用しやすくなった。それらが普及するとともに、その影響を問題視する声が多く上がるようになってきている。

実際に、大学生のスマートフォンの利用と読書時間の関係性を見ると図表1の関係になっている。

図表1 スマートフォン保持率と読書の関係性



大学生の一日の読書時間が0分である割合は増えており、スマートフォンの普及により本を読まない人が増えていると考察できる。

そこで、読書は本当に必要なのかという疑問が浮かび上がる。読書は、読者に対してどのようなプラスの影響を及ぼしているのだろうか。

白井は、小学校高学年の児童の読書関連動機を測定し、その約半年後の読書時間と国語学習ス

キルに対する影響力について調べている（臼井、2016）。この調査のデータ分析中で「多少難しい文章であっても、ねばり強く最後まで読む傾向性が強い事は、半年後の読書時間を増し、国語学習に対する自信（得意意識）を増す方向に働いていた」と結論付け、加え「最近読んだ本の中で感動した体験があったことも、男女同様に国語学習スキルに対してプラスに影響を及ぼした」（臼井、2016）としている。このことから、読書は国語学習スキルに対してプラスに影響していることが分かる。つまり読書は、国語学習スキルに必要だとわかる。

図表1より“スマートフォンが本を読まない人の増加”につながっているのではないかと考えられる。しかし、携帯型の電気通信サービスはスマートフォン以前にも存在していた。携帯電話である。携帯電話が普及した時には、影響はなかったのであろうか。

森光は、大学生を対象に携帯電話に対する理解や認識、携帯電話が日常生活にどのような影響を与えるか、さらに、今後の教育の在り方などについて研究している（森光、2004）。この研究では、若者の活字離れを指摘している。調査結果をもとに「手紙を書く経験も少なく、手紙を書く形式や手紙に用いられる用語等の理解も十分ではない。また、新聞、小説（本）、雑誌などを読む習慣も身に付いていない」（森光、2004）と結論付けている。また、「機器の取り扱い方の習得は言うまでもないが、新しい学力観に立った情報教育の在り方が幅広く求められることになる」（森光、2004）と考察している。つまり、電子媒体の影響を踏まえた上で、情報教育の在り方も変化すべきと語っている。

平井は、授業の中で一部加工したデジタルコンテンツを用いることが、児童の「分かる授業」にどのように貢献するか、ひいては社会問題化している「理数離れ」「全体的な学力低下傾向」に対する解決策となりうるかについて、実際の授業を参与して実証的に検証している。この研究では、標準偏差などのデータから「ICTを『計画的・積極的』に活用することが『分かる授業』、『理科好きになる』、『理解＝学力向上』に効果がある」している（平井、2008）。

このように、デジタルコンテンツは利用の仕方・工夫によっては、プラスの影響を及ぼすことがある。前述した通り、この研究では適切な生活習慣について考察をする。その一部として、デジタルコンテンツとの適切な利用時間についても考える。適切な利用時間は、年齢によって記憶力が変化するように、年齢などの要素によって大きく変化すると考えられる。適切な利用時間について書かれた記事は、中学生を対象にしたものや古いデータをもとにしたものが多い。では、私たち現大学生における適切な利用時間というのはどの程度になるのだろうか。ある程度成長した大人と子供の挟間にいる現大学生の適切な生活習慣について確かめていきたい。

本稿で漢字の理解度の指標として利用する漢字テストは、その判断材料の一部でしかない。それゆえに、本稿における漢字の理解度の定義付けが狭義なものになってしまうことは否めないが、考察していきたい。

2. 研究の方法

2-1. 調査研究の経緯

4~6月	調査テーマ討論
6~7月	予備調査の実施・集計
9~10月	調査票作成
10~11月	本調査実施
12~2月	分析・報告書作成

2-2. 実施概要

2-2-1. 予備調査

- ・調査の目的

本調査に向けて、生活習慣および回答傾向を想定するために調査を行った。

- ・調査対象者

文教大学湘南キャンパスに所属する学生 85 名

- ・調査方法

調査票を用いた集合調査

- ・質問項目

—漢字の理解度

※漢字の理解度を測定するにあたって、漢字の「読みと書きの能力」を測定する独自のテストを行った。内容は、常用漢字（漢字能力検定2級）・常用漢字外（漢字能力検定準1級）、ネット漢字（漢字能力検定準一級）である。また、回答形式については、回答時間の都合上三択を採用した。

—漢字に対する印象

—スマートフォン・読書・図書館について

—通学時の行動について

※その他、フェイス項目など

2-2-2. 本調査

- ・調査時期

2019年10月10日～10月24日

- ・調査方法

調査票を用いた集合調査

- ・調査対象者

文教大学湘南キャンパスに所属する学生 131 名

合計 クラス数：3 合計配布数 131

有効回収数 126 有効回収率 96.2%

・主な質問項目

—漢字の理解度

※漢字の理解度を測定するにあたって、漢字の「読みと書きの能力」を測定する独自のテストを行った。内容は、常用漢字（漢字能力検定2級）・常用漢字外（漢字能力検定準1級）、ネット漢字（漢字能力検定準1級）である。また、回答形式については、回答時間の都合上三択を採用した。

—漢字に対する印象

—スマートフォン・音楽・動画視聴・時事（新聞）・読書について

※「生活の中で漢字に触れる媒体および行動」に加えて、「電子機器媒体に触れる行動」を中心として調査を行った。

—上記項目に関する金銭の使用について

※その他、フェイス項目など

3. 調査結果

3-1. 回答者の基本属性

有効回答者 126 名の内訳として男性 58 名 (46.0%)、女性 58 名 (46.0%)、その他 1 名 (0.8%)、無回答 9 名 (7.1%) である。

1 年生 53 名 (42.1%)、2 年生 25 名 (19.8%)、3 年生 29 名 (23.0%)、4 年生 5 名 (4.0%)、無回答 14 名 (11.1%) である。

メディア表現学科 57 名 (45.2%)、情報システム学科 12 名 (9.5%)、情報社会学科 15 名 (11.9%)、国際観光学科 14 名 (11.1%)、経営学科 15 名 (11.9%)、国際理解学科 3 名 (2.4%)、無回答 10 名 (7.9%) である。

3-2. 漢字の得点（理解度）について

本調査では漢字のテストを行い、その点数を漢字の理解度とする。

合計点 12 点のテストとなっており、常用漢字（4 点）・常用外漢字（4 点）・ネット漢字（4 点）の計 12 点で構成されている。難易度は、常用漢字が日本漢字能力検定 2 級、常用外漢字とネット漢字が準 1 級となっている。各合計点数の度数分布は図表 2 の通りである。

図表 2 漢字点数の記述統計

	最低点	最高点	平均点
全体合計点	2	12	7.10
常用漢字合計点	0	4	2.45
常用漢字外合計点	0	4	1.68
ネット漢字合計点	0	4	2.97

(n=126)

記述統計の結果から、常用漢字外とネット漢字は同じ難易度なのにも関わらず、点数差があるということがわかる。このことにより、同難易度（準一級）でもネットで使用する漢字に対する理解度が高いということが分かる。

3-3. 仮説について

この調査の主目的は、「大学生における適切な生活習慣」を考察することである。そのうえで、以下の6つの仮説を検討する。

- ① 漢字に対するイメージが「漢字の理解度」に影響を及ぼしているのではないだろうか。
- ② スマートフォンが「漢字の理解度」にマイナスの影響を及ぼしているのではないだろうか。
- ③ 音楽は「漢字の理解度」にプラスの影響を及ぼしているのではないだろうか。
- ④ 動画を視聴することは、「漢字の理解度」にマイナスの影響があるのではないだろうか。
- ⑤ ニュースを見て情報を得る行動は「漢字の理解度」にプラスの影響を及ぼしているのではないだろうか。
- ⑥ 読書の利用方法によって「漢字の理解度」が変わるのではないだろうか。

まず、普段の生活で各媒体に感じている印象が漢字の理解度にどのような影響を与えるか測定するために（漢字・スマホ・音楽・動画・時事・読書）に対するイメージと漢字の得点（全体・常用・常用外・ネット）にて重回帰分析を行った。（図表3）

その結果、有意水準10%未満（ $p < .10$ ）となったのは以下の項目である。

[全体合計点]

「Q14_6 漢字の多い小説好き（漢字）」「Q14_12 読めない漢字調べる（漢字）」「Q16_4 最新の機種を使いたい（スマホ）」「Q19_3 今より長く聞きたい（音楽）」「Q19_4 最新機種で聞きたい（音楽）」「Q21 視聴時間（動画）」「Q22_3 今より長く観たい（動画）」「Q22_6 生活に必要な（動画）」「Q24 視聴時間（時事）」「Q25_1 好き（時事）」「Q25_5 生活に必要な（時事）」「Q30_6_2 生活に必要な（マンガ雑誌を除く読書）」「Q33_1 好き（図書館）」であった。

「Q16_4 最新の機種を使いたい（スマホ）」と「Q19_4 最新機種で聞きたい（音楽）」に関しては”当てはまる”と回答したもののテストの得点が最も低くなっており、他の問い（時間に関する問いを除く）は”当てはまる”、“やや当てはまる”のテスト得点が高くなっていた。このことから、機種などの技術を重要視する人の点数は低いのではないかと推測できる。加えて、それ以外の項目のように自ら行動する人の点数は高いのではないかと考察できる。

[常用漢字]

常用漢字合計点に対して有意となったのは、「Q14_7 覚えた漢字使いたい（漢字）」「Q14_12 読めない漢字調べる（漢字）」「Q22_3 今より長く観たい（動画）」「Q24 視聴時間（時事）」「Q25_1 好き（時事）」「Q25_2 得意（時事）」「Q25_5 生活に必要な（時事）」であった。

「Q25_2 得意（時事）」に関してのみ“当てはまる”のテストの得点が一番低くなっていた。このことから、常用漢字の理解度は時事に関する情報集めが得意と考えている人ほど低いと推測できるため、自分の技術に満足している人は感じの理解度が低いのではないかと考察できる。

[常用漢字外]

常用外漢字外合計点に対して有意となったのは、「Q14_6 漢字の多い小説好き (漢字)」「Q14_12 読めない漢字調べる (漢字)」「Q16_4 最新の機種を使いたい (スマホ)」「Q19_3 今より長く聞きたい (音楽)」「Q22_6 生活に必要な (動画)」「Q24 視聴時間 (時事)」「Q25_1 好き (時事)」「Q30_2_1 得意 (マンガ雑誌読書)」「Q33_1 好き (図書館)」であった。

「Q22_6 生活に必要な (動画)」の項目のみが“当てはまる”のテストの得点が高選肢よりも低くなっている。このことから、動画を生活において重要視している人ほど漢字の理解度が低いと推察できる。他の項目に関しては、“当てはまる”のテストの得点が高いことから、リテラシーに密接な関係があるのではないかと考察できる。

[ネット漢字]

ネット漢字合計点に対して有意となったのは、「Q14_4 書く嫌い (漢字)」「Q14_8 生活に必要な (漢字)」「Q14_10 他人の間違いを指摘 (漢字)」「Q22_2 他人より観る (動画)」「Q25_3 今より長く観たい (時事)」であった。

ネット漢字合計点は他漢字 (全体・常用・常用外) 合計点より、他の人と比較する項目が有意となる傾向にある。このことより、他人と比較した場合の自分の評価がネット漢字の理解度に影響を与えているのではないかと推測できる。

図表3 重回帰分析

漢字に対する態度									
従属変数	覚える嫌い	美しいイメージ	日本文化に必要な要素	書く嫌い	ひらがな読み辛い	漢字の多い小説好き	覚えた漢字使いたい	生活に必要な	R ²
全体合計点	.891	.566	.242	.911	.729	.023 **	.129	.881	.177
常用漢字合計点	.349	.455	.807	1.000	.757	.734	.023 **	.669	.108
常用漢字外合計点	.693	.236	.124	.237	.473	.004 ***	.543	.225	.246
ネット漢字合計点	.740	.415	.583	.044 **	.585	.181	.944	.052 *	.176
従属変数	堅いイメージ	他人の間違いを指摘	ひらがな感情伝える罰	読めない漢字調べ	SNS ひらがな理解×	日本人に必要な要素	カッコいいイメージ	R ²	
全体合計点	.695	.381	.958	.006 ***	.500	.644	.740	.177	
常用漢字合計点	.918	.282	.623	.023 **	.626	.768	.496	.108	
常用漢字外合計点	.849	.296	.743	.003 ***	.984	.619	.893	.246	
ネット漢字合計点	.237	.017 **	.198	.908	.242	.365	.875	.176	
スマホに対する態度									
従属変数	利用時間	好き	効率良く使える	今より長く使いたい	最新の機種を使いたい	生活に必要な	ない生活考えられない	R ²	
全体合計点	.131	.804	.433	.265	.073 *	.915	.943	.090	
常用漢字合計点	.193	.842	.739	.311	.129	.311	.541	.075	
常用漢字外合計点	.224	.865	.363	.693	.070 *	.439	.258	.090	
ネット漢字合計点	.647	.892	.798	.315	.976	.869	.284	.023	
音楽に対する態度									
従属変数	視聴時間	好き	ほかの人より聞かせる	今より長く聞きたい	最新機種で聞きたい	最新の音楽を知りたい	生活に必要な	ない生活考えられない	R ²
全体合計点	.775	.444	.859	.034 **	.071 **	.559	.772	.052 *	.099
常用漢字合計点	.843	.760	.213	.242	.106	.491	.755	.181	.077
常用漢字外合計点	.837	.590	.411	.075 *	.494	.521	.410	.130	.060
ネット漢字合計点	.190	.122	.906	.199	.116	.721	.911	.305	.068
動画に対する態度									
従属変数	視聴時間	好き	他の人より観る	今より長く観たい	最新機種で観たい	流行の動画を知りたい	生活に必要な	ない生活考えられない	R ²
全体合計点	.087 *	.989	.169	.030 **	.923	.957	.048 **	.805	.135
常用漢字合計点	.258	.682	.901	.065 *	.787	.681	.176	.516	.086
常用漢字外合計点	.136	.550	.319	.228	.950	.651	.026 **	.566	.099
ネット漢字合計点	.482	.146	.063 *	.164	.493	.995	.980	.516	.066

ニュース（時事）に対する態度									R ²
従属変数	視聴時間	好き	得意	今より長く 視たい	最新の内容 仕入れたい	生活に必要な	ない生活考 えられない		
全体合計点	.034 **	.004 ***	.177	.529	.318	.040 **	.671	.134	
常用漢字合計点	.005 ***	.026 **	.083 *	.331	.511	.007 ***	.256	.163	
常用漢字外合計点	.068 *	.008 ***	.864	.158	.753	.309	.849	.122	
ネット漢字合計点	.396	.483	.316	.090 *	.215	.767	.955	.053	
マンガ・雑誌の読書に対する態度									R ²
従属変数	読書時間	好き	得意	今より長く 読みたい	購入してま で読みたい	借りてまで 読みたい	生活に必要な	ない生活考 えられない	
全体合計点	.688	.770	.063	.284	.295	.232	.794	.927	.118
常用漢字合計点	.651	.775	.246	.762	.397	.183	.682	.383	.064
常用漢字外合計点	.633	.733	.039 **	.122	.268	.277	.408	.799	.097
ネット漢字合計点	.369	.114	.870	.962	.935	.749	.993	.321	.085
マンガ・雑誌を除く読書に対する態度									R ²
従属変数	読書時間	好き	得意	今より長く 読みたい	購入してま で読みたい	借りてまで 読みたい	生活に必要な	ない生活考 えられない	
全体合計点	.910	.329	.952	.852	.960	.976	.092 *	.723	.162
常用漢字合計点	.724	.659	.790	.823	.979	.819	.160	.815	.075 *
常用漢字外合計点	.706	.484	.847	.728	.345	.600	.438	.437	.159
ネット漢字合計点	.818	.343	.397	.465	.118	.569	.166	.924	.077 *
図書館に対する態度									R ²
従属変数	平均利用時 間	好き	今よりも長 く使いたい	最新の設備 を使いたい					
全体合計点	.872	.075 *	.771	.618					.062
常用漢字合計点	.345	.346	.584	1.000					.034
常用漢字外合計点	.542	.035 **	.371	.331					.085
ネット漢字合計点	.422	.750	.862	.896					.008

注) *** p<.01, ** p<.05, * p<.10

(※図表3の従属変数名は、サイズの関係上省略している)

ネット漢字に有意な従属変数は、他の得点において有意でないことから、有意となっている従属変数の中でも、ネット漢字に有意なものとしてそれ以外（全体・常用・常用漢字外）に有意なものに分けることができる。

3-4

仮説①「漢字に対するイメージが「漢字の理解度」に影響を及ぼしているのではないだろうか」

3-4-1

漢字に対する態度に関しては、3-3で示した通り、「Q14_4 習字などで漢字を書くのが嫌い」「Q14_6 漢字の少ない小説よりも、漢字の多い小説を読む方が好き」「Q14_7 覚えた漢字を使いたくなる」「Q14_8 漢字は生活をするうえで必要な要素だ」「Q14_10 他人の漢字の間違いを指摘したくなる」「Q14_12 難しい漢字が出てきたときに、調べる」の6つの項目であった。（※項目に関して、省略を行っていない。）

図表3から、「Q14_4 習字などで漢字を書くのが嫌い」「Q14_10 他人の漢字の間違いを指摘したくなる」「Q14_8 漢字は生活をするうえで必要な要素だ」の3つがネット漢字合計点に影響を与えているということが分かる。また、他の自分から行動する項目はネット漢字以外の漢字に影響を与えているということが分かる。

3-4-2

図表4は、3-3の図表3の重回帰分析を行った漢字に対する態度の15項目(Q14)の平均に対して、抽出される因子を5つに固定しバリマックス回転を用いて主成分分析による因子分析を行った。その結果、5つの因子が検出された。

図表4 漢字に対する態度の因子分析

	成分					平均値
	行動	生活	プラス印象	マイナス機能	マイナス印象	
難しい漢字が出てきたときに、調べる	.744	-.106	.111	-.102	.030	.135
ひらがなだけでと、感情が伝わりにくい	.655	.126	-.095	.207	-.177	.143
覚えた漢字を使いたくなる	.647	.066	.408	-.132	.053	.208
他人の漢字の間違いを指摘したくなる	.554	.175	.285	.037	.174	.245
漢字の少ない小説よりも、漢字の多い小説を読む方が好き	.523	.094	-.156	.016	-.394	.017
漢字は日本人には必要な要素だ	.104	.798	.206	.136	.010	.251
漢字は生活をするうえで必要な要素だ	.169	.756	.022	.020	.104	.214
漢字は日本文化に必要な要素だ	-.078	.724	.335	-.059	-.139	.157
漢字にはカッコいいイメージがある	.087	.169	.753	.054	.074	.227
漢字に美しいイメージがある	.095	.200	.735	-.017	-.200	.162
絵本の文章など、ひらがなだけではテンポよく読みにくい	-.008	.240	-.106	.745	-.120	.150
習字などで漢字を書くのが嫌い	-.060	-.304	.206	.715	.101	.132
LINE等のメッセージでひらがなだけでと、理解しにくいことがあった	.443	.297	-.071	.462	.012	.228
漢字には堅いイメージがある	.115	.046	.057	.090	.806	.223
試験などのために、漢字を覚えるのが嫌い	-.138	-.009	-.183	-.121	.650	.040
寄与率	15.180	14.080	11.010	9.340	9.290	
固有値	2.280	2.110	1.650	1.400	1.400	
				累積寄与率	58.89	

第一因子を「行動を起こす人」、第二因子を「生活に必要なだと感じている人」第三因子を「プラスのイメージがある人」、第四因子を「機能に対してマイナス印象を持っている人」第五因子を「苦手意識を持っている人」とした。

この結果から、機能面に関して重要視している人が多いとわかる。

3-5

仮説②「スマートフォンが「漢字の理解度」にマイナスの影響を及ぼしているのではないだろうか」

3-5-1

スマホに対する態度に関しては、3-3で示した通り、「Q16_4 最新のスマホを使いたい」の従属変数が全体合計点と常用漢字外合計点において有意であった。

この結果から、最新の機種を使いたいという従属変数以外は漢字の理解度に影響を及ぼしていないということが分かる。また、ネット漢字合計点に影響を及ぼしている従属変数もなかった。

よって、スマホに対する態度は漢字の理解度にほとんど影響を及ぼしていないということが分かる。

3-5-2

自由記述で回答を求めたスマホの利用時間を「よく利用する」「利用する」「あまり利用しない」「ほとんど利用しない」の4つに再割り当てし、漢字の理解度（全体・常用・常用外・ネットの平均点数）に差があるかどうかを検討するため、一要因の分散分析（一元配置分散分析）を行った。その結果、利用時間は有意でなかった。

全体漢字合計点数 (F(3, 122)=1.36, N.S.)

常用漢字合計点数 (F(3, 122)=1.39, N.S.)

常用漢字外合計点数 (F(3, 122)=.75, N.S.)

ネット漢字合計点数 (F(3, 122)=.18, N.S.)

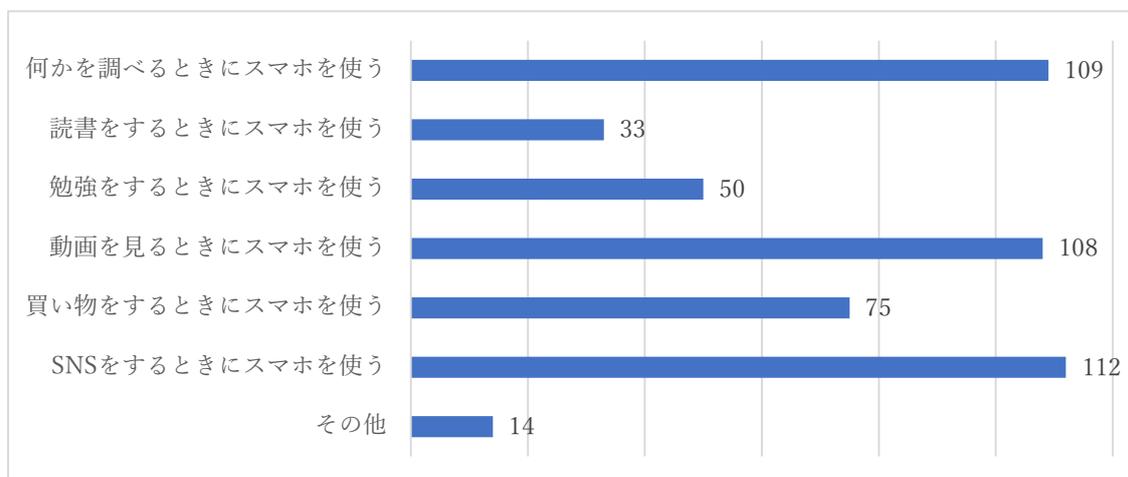
この結果から、スマホの使用時間によって、漢字の理解度は変化しないということが分かる。

※この研究における再割り当ては、度数分布の4分位を参考に行っている。

3-5-3

スマホの使用用途(Q17)における度数分布表は以下の通りである。

図表5 スマホ使用用途の度数分布表



この設問は複数回答となっており、項目は図表5の通りである。

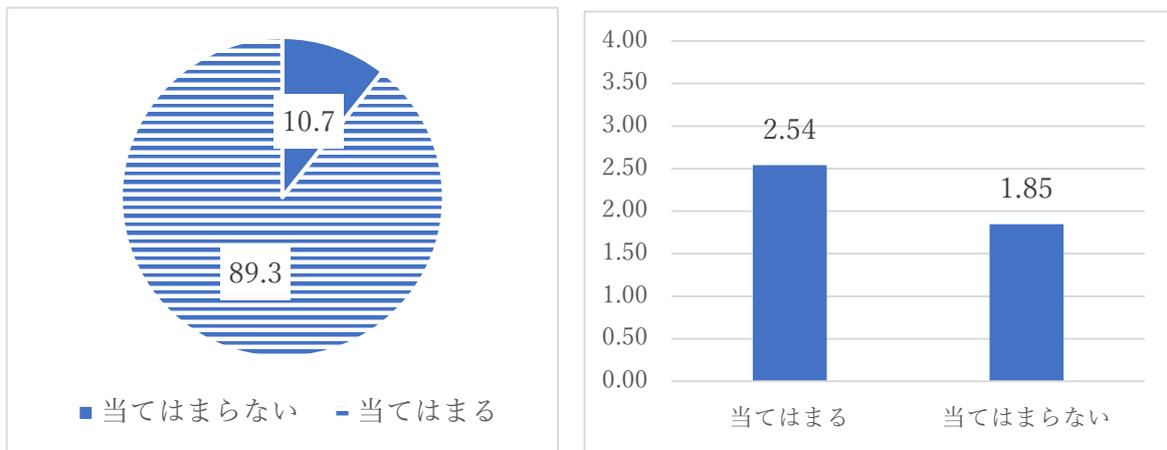
Q17（図表5）の各項目に対して、当てはまるか否かによって、漢字の理解度の平均値に違いがあるかどうかを検討するため、対応のないt検定を実施した。その結果、以下の項目の平均値の間に有意な差が見られた。

「常用漢字合計点」×「何かを調べるときにスマホを使う」

「何かを調べるときにスマホを使う」の割合は図表6の通りである。

図表6 「Q17_1 何かを調べるときにスマホを使う」の割合（左）

図表7 「Q17_1 何かを調べるときにスマホを使う」の常用漢字平均点（右）



常用漢字合計点の平均値は、「当てはまる」は 2.54 (SD=0.95)、「当てはまらない」は 1.85 (SD=1.21) であった (図表 7)。

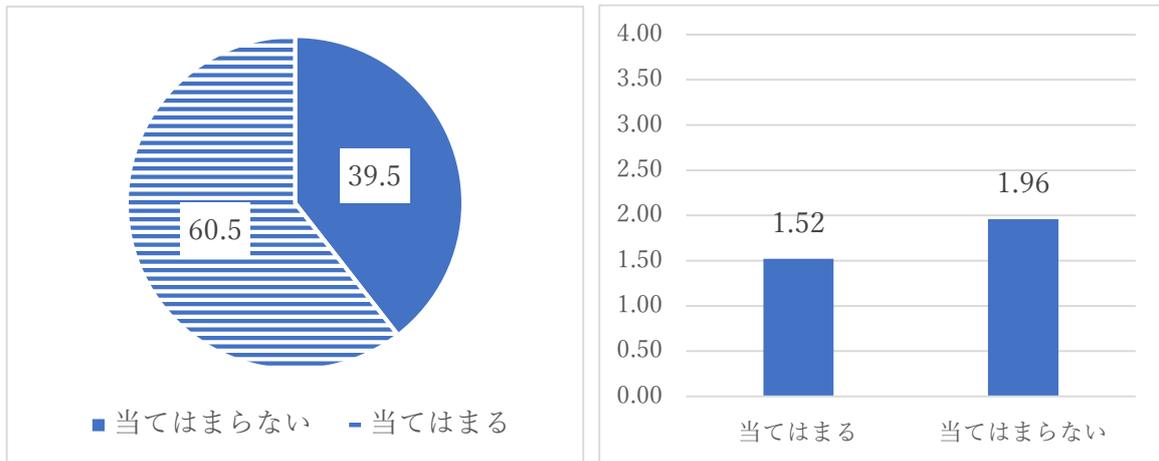
前述した通り、平均値の間には有意な差がみられた ($t(120)=-2.42, p<.05$)。このことから、何かを調べるときにスマホを使用する人は常用漢字への理解度が高いということが分かる。

「常用漢字外合計点」×「買い物をするときにスマホを使う」

「買い物をするときにスマホを使う (Q17_5)」の割合は図表 8 の通りである。

図表 8 「Q17_5 買い物をするときにスマホを使う」の割合（左）

図表 9 「Q17_5 買い物をするときにスマホを使う」の常用漢字外平均点（右）



常用漢字外合計点の平均値は、当てはまるは 1.52 (SD=1.10)、当てはまらないは 1.96 (SD=1.26) であった (図表 9)。

前述した通り、平均値の間には有意な差がみられた ($t(122)=2.06, p<.05$)。このことから、買い物をするときにスマホを使っている人ほど点数が低いということが分かる。

3-5-4

3-5-2と3-5-3より、スマートフォンを使用することによる悪影響はないが、生活の一部となると影響が出てくるのではないかと考察できる。

3-5-1から使用時間による悪影響はないが、3-5-2から使用用途により影響がある。調べものなどの知識を仕入れるために使用することはプラスの影響が出ているが、買い物に使用する場合はマイナスの影響が出ている。

3-6

仮説③「音楽は「漢字の理解度」にプラスの影響を及ぼしているのではないだろうか」

3-6-1

音楽に対する態度は3-3で示した通り、「Q19_3(今の利用時間より)音楽を聴きたい」「Q19_4音楽を最新機種で聴きたい」「Q19_7音楽がない生活は考えられない」の3つの項目が漢字の理解度に対して有意であった。

このことから、音楽はネット漢字には影響を及ぼしていないということが分かる。また「Q19_3(今の利用時間より)音楽を聴きたい」「Q19_4音楽を最新機種で聴きたい」という項目が有意であることから、音楽に対して上昇志向のある人の漢字の理解度が高いのではないかと考察できる。

3-6-2

自由記述で回答を求めた音楽の視聴時間を「よく利用する」「利用する」「あまり利用しない」「ほとんど利用しない」の4つに再割り当てし、漢字の理解度(全体・常用・常用外・ネットの平均点数)に差があるかどうかを検討するため、一要因の分散分析(一元配置分散分析)を行った。その結果、利用時間は有意でなかった。

全体漢字合計点数(F(3, 122)=.02, N.S.)

常用漢字合計点数(F(3, 122)=.40, N.S.)

常用漢字外合計点数(F(3, 122)=.04, N.S.)

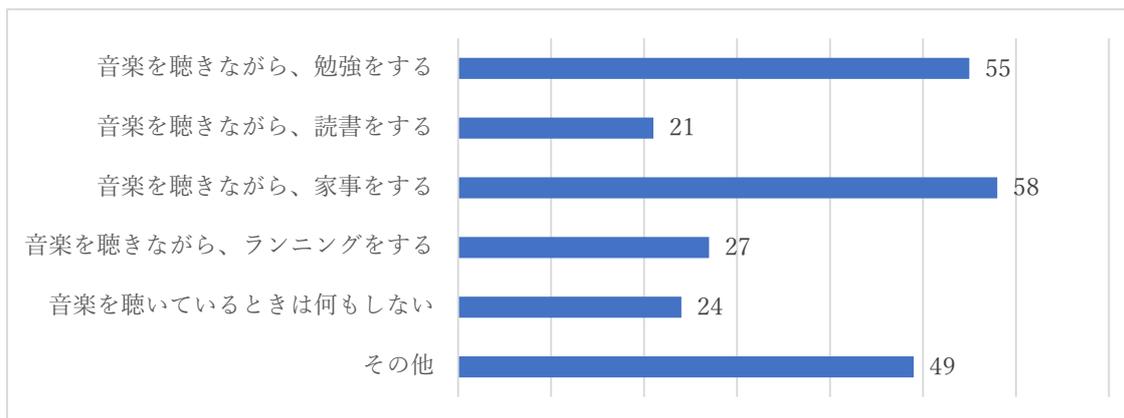
ネット漢字合計点数(F(3, 122)=.16, N.S.)

この結果から、音楽の視聴時間は漢字の理解度に影響を及ぼさないということが分かる。

3-6-3

音楽の平行使用用途(Q20)における度数分布表は以下の通りである。

図表 10 音楽平行使用用途度数分布表



※この設問は複数回答となっており、項目は図表 10 の通りである。

Q20 (図表 10) の各項目に対して、当てはまるか否かによって、漢字の点数の平均点に違いあるかどうかを検討するため、対応のない t 検定を実施した。その結果、すべての項目において有意な差は見られなかった。

この結果から、音楽に対する行動は漢字の理解度に影響を及ぼさないということが分かる。

3-6-4

「3-6-1」～「3-6-3」より、音楽自体は漢字の理解度に影響を及ぼさないということが分かる。また、3-6-1 で記述した通り、上昇志向が漢字の理解度に影響を及ぼしていることから、音楽に対する上昇志向がある人は、漢字に対しても上昇志向があるのではないかと考察できる。

3-7

仮説④「動画を視聴することは、「漢字の理解度」にマイナスの影響があるのではないだろうか

3-7-1

動画に対する態度に関しては、3-3 で示した通り、「Q21 視聴時間(動画)」「Q22_2 他人より動画見ていると感じる」「Q22_3 (今の利用時間より) 視たい」「Q22_7 動画のない生活は考えられない」の 4 つの項目が有意であった。「Q22_2 他人より動画見ていると感じる」という項目がネット漢字に有意な点から、ネットと接する機会がネット漢字に影響を与えているのではないかと考察できる。また、今より長く観たいという項目が全体合計点に有意なことから、音楽と同様に媒体に対しての上昇意識が高い人ほど漢字への理解度が高いのではないかと考えられる。

3-7-2

自由記述で回答を求めた動画の視聴時間を「よく利用する」「利用する」「あまり利用しない」「ほとんど利用しない」の 4 つに再割り当てし、漢字の理解度 (全体・常用・常用外・ネットの平均点数) に差があるかどうか検討するため、一要因の分散分析 (一元配置分散分析) を行ったその結果、動画視聴時間に有意な差は見られなかった。

全体漢字合計点数 (F (3, 122)=1.81, N. S.)

常用漢字合計点数 (F (3, 122)=.65, N. S.)

常用漢字外合計点数 (F(3, 122) = 1.55, N.S.)

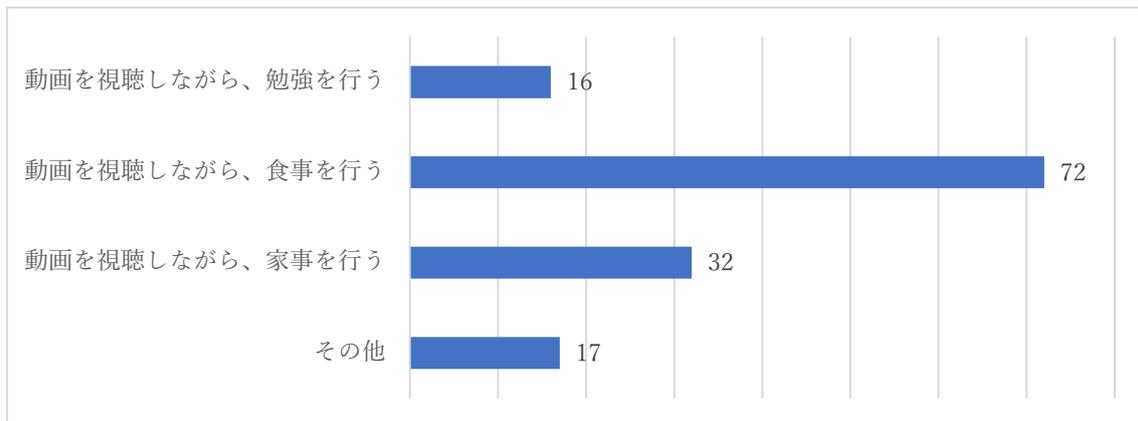
ネット漢字合計点数 (F(3, 122) = .56, N.S.)

この結果から動画の視聴時間は、漢字の理解度に影響を及ぼしていないということが分かる。

3-7-3

動画の平行使用用途(Q23)における度数分布表は以下の通りである。

図表 1 1 動画平行使用用途度数分布表



※この設問は複数回答となっており、項目は図表 1 1 の通りである。

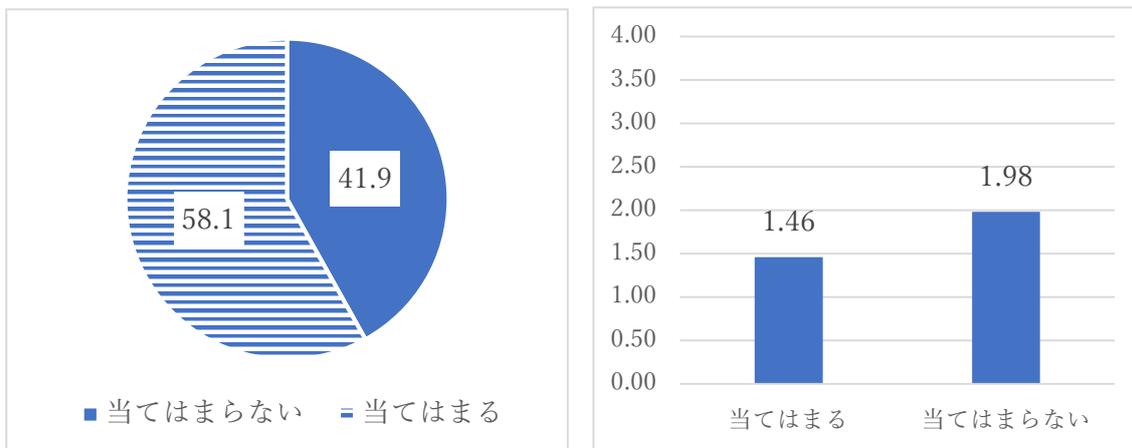
Q23(図表 1 1)の各項目に対して、当てはまるか否かによって、漢字の点数の平均値に違いがあるかどうかを検討するため、対応のない t 検定を実施した。その結果、以下の項目の平均値に有意差が見られた。

「常用漢字外合計点」×「動画を視聴しながら食事を行う」

「動画を視聴しながら食事を行う」の割合は図表 1 2 の通りである。

図表 1 2 「Q23_2 動画を視聴しながら食事を行う」の割合 (左)

図表 1 3 「Q23_2 動画を視聴しながら食事を行う」の常用漢字外平均点 (右)



常用漢字外合計点の平均値は、当てはまるは 1.46 (SD=1.20)、当てはまらないは 1.98 (SD=1.08) であった (図表 1 3)。

前述した通り、平均値の間には、有意な差が見られた ($t(122)=2.50, p<.05$)。このことから、動画を視聴しながら食事を行う人は、常用漢字外に対する理解度が低いということが分かる。

3-7-4

この結果から、動画の視聴時間は漢字の理解度に影響を及ぼさないが、動画の使用用途が生活に浸透しすぎていると、漢字の理解度にマイナスの影響を与えるということが分かる。

3-8

仮説⑤「ニュースを見て情報を得る行動は「漢字の理解度」にプラスの影響を及ぼしているのではないだろうか」

3-8-1

ニュースに対する態度については、3-3に示した通り、「Q24 視聴時間 (時事)」「Q25_1 ニュースが好き」「Q25_2 時事 (ニュース) についての情報を集めるが得意」「Q25_3 (今の閲覧時間より) もっとニュースを読みたい、見たい」「Q25_5 ニュースは生活に必要な物だと思う」である。7項目中5項目が有意となり、各媒体の中で最も有意な項目が多い媒体であると考えられる。

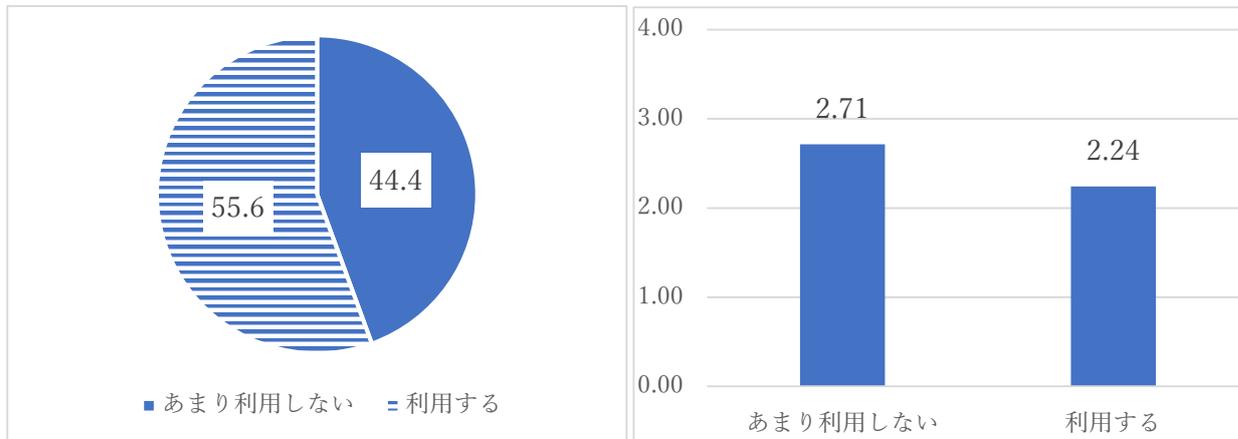
3-8-2

自由記述で回答を求めたニュースの視聴時間を「利用する」「利用しない」の2つに再割り当てし、漢字の理解度 (全体・常用・常用外・ネットの平均点数) に差があるかどうか検討するため、対応のない t 検定を行った。その結果、視聴時間区分ごとの常用漢字合計点が有意であった。

ニュースの利用時間区分ごとの割合は、図表 1 4の通りである。

図表 1 4 ニュースの利用時間区分ごとの割合 (左)

図表 1 5 ニュースの利用時間区分ごとの常用漢字平均点 (右)



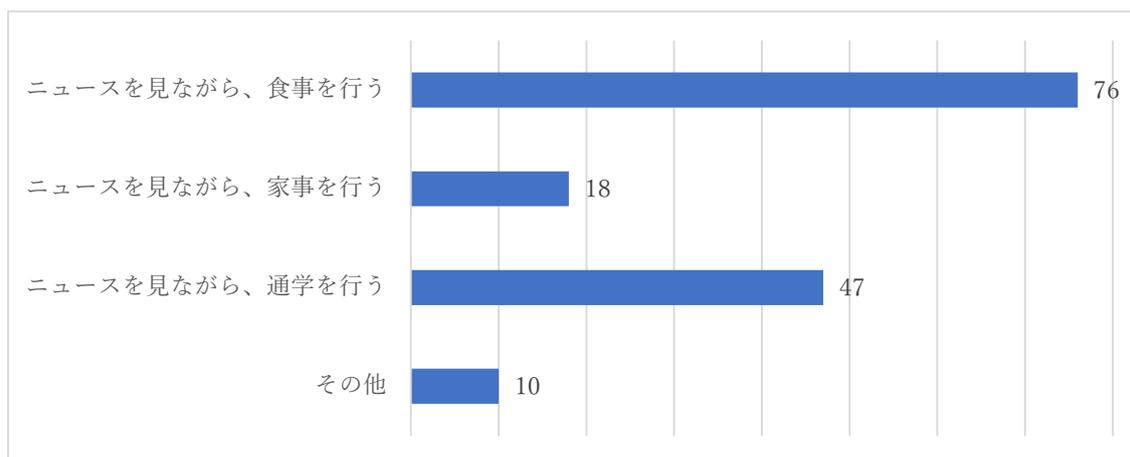
常用漢字合計点の平均値は、利用する 2.24 (SD=0.97)、利用しないは 2.71 (SD=0.97) であった (図表 1 5)。

前述した通り、平均値の間には有意な差がみられた ($t(124)=2.72, p<01$)。このことから、ニュースを視聴する人ほど、常用漢字の点数が低いということが分かる。

3-8-3

ニュース視聴の平行行動 (Q26) における度数分布表は図表 1 6 の通りである。

図表 1 6 ニュース視聴平行行動度数分布表



※この設問は複数回答となっており、項目は図表 1 6 の通りである。

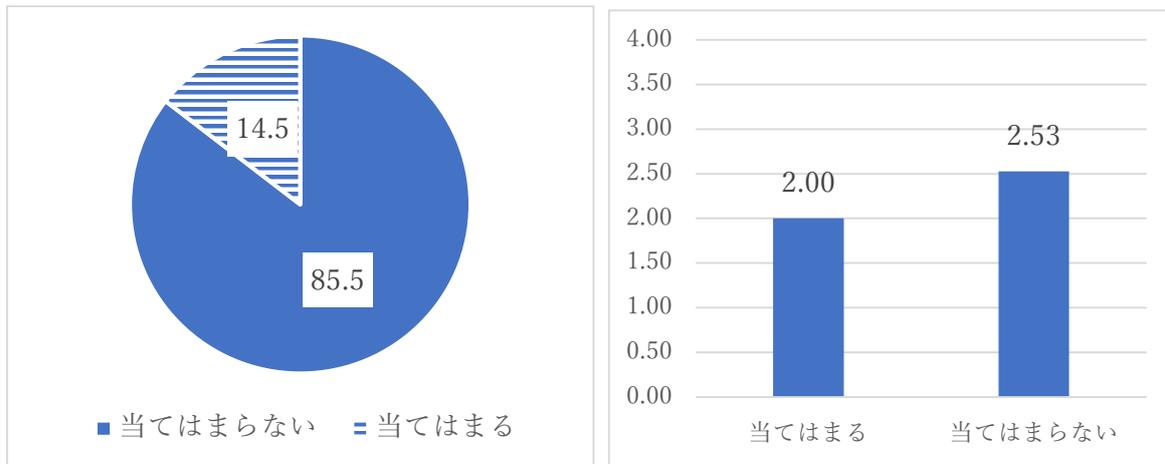
Q26 (図表 1 6) の各項目に対して、当てはまるか否かによって、漢字の点数の平均点に違いがあるかどうかを検討するため、対応のない t 検定を実施した。その結果、以下の項目の平均値の間に有意な差が見られた。

「常用漢字合計点」×「ニュースを見ながら家事を行う」

「ニュースを見ながら家事を行う」の割合は以下の図表 1 7 の通りである。

図表 1 7 「Q26_2 ニュースを見ながら家事を行う」の割合 (左)

図表 1 8 「Q26_2 ニュースを見ながら家事を行う」の常用漢字平均点 (右)



常用漢字合計点の平均値は、当てはまる 2.00(SD=0.91)、当てはまらない 2.53(SD=1.00)であった (図表 1 8)。

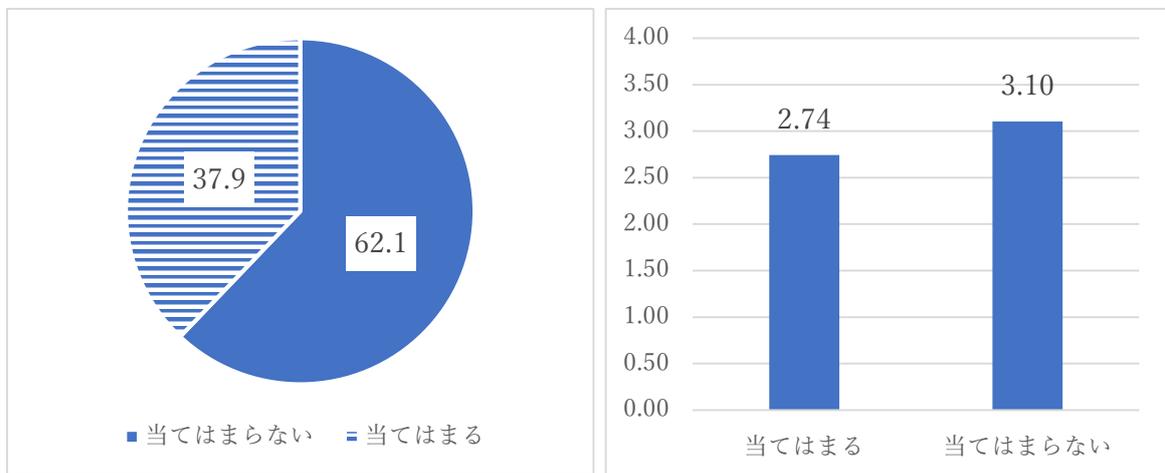
前述した通り、平均値の間には有意な差が見られた ($t(24.5)=-2.25, p<.05$)。このことから、ニュースを見ながら家事を行う人は、常用漢字に対する理解度が低いということが分かる。

「ネット漢字合計点」×「ニュースを見ながら通学を行う」

「ニュースを見ながら通学を行う」の割合は図表 1 9 の通りである。

図表 1 9 「Q26_3 ニュースを見ながら通学を行う」の割合

図表 2 0 「Q26_3 ニュースを見ながら通学を行う」のネット漢字平均点



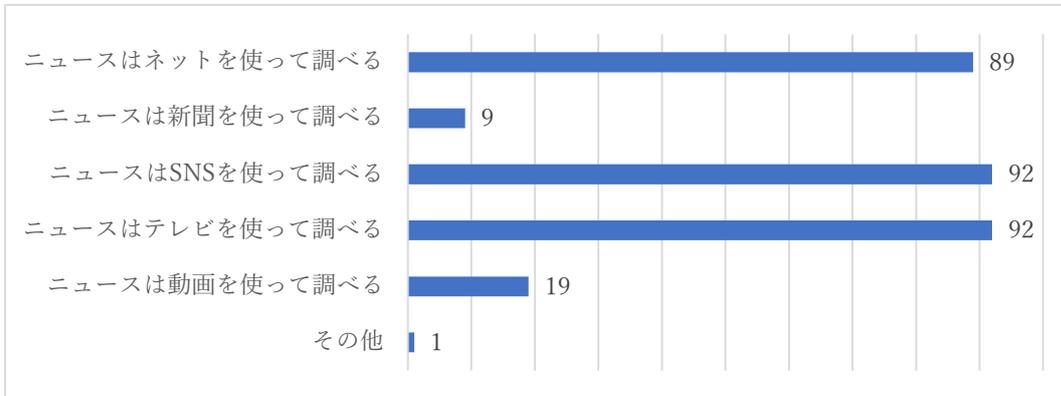
ネット漢字合計点の平均点は、当てはまる 2.74(SD=0.85)、当てはまらない 3.10(SD=0.68)であった (図表 2 0)。

前述した通り、平均値の間には有意な差が見られた ($t(122)=-2.60, p<.05$)。このことから、ニュースを見ながら通学を行う人はネット漢字に対する理解度が低いということが分かる。

3-8-4

ニュースの調べ方(Q27)における度数分布表は以下の通りである。

図表 2 1 ニュースの調べ方度数分布表



※この設問は複数回答となっており、項目は図表 2 1 の通りである。

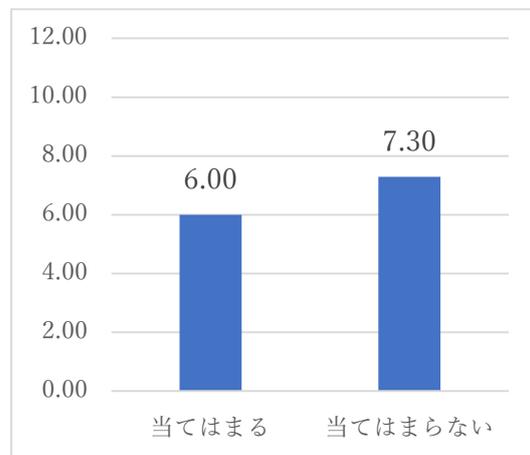
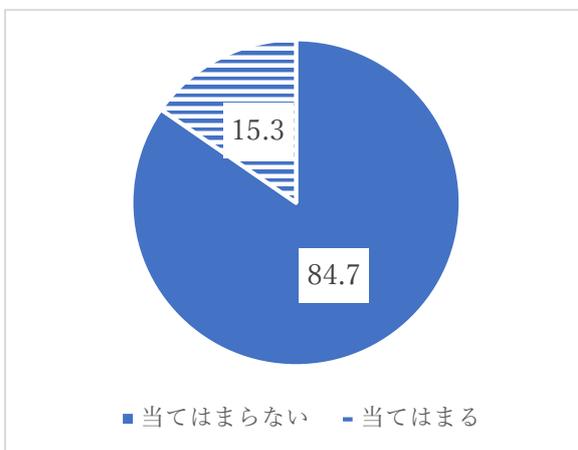
Q27 (図表 2 1) の各項目に対して、当てはまるか否かによって、漢字の点数の平均点に違いがあるかどうか検討するために、対応のない t 検定を実施した。その結果、以下の項目の平均値の間に有意な差がみられた。

「全体の合計点」×「ニュースは動画を使って調べる」

「ニュースは動画を使って調べる」の割合は図表 2 2 の通りである。

図表 2 2 「Q27_5 ニュースは動画を使って調べる」の割合

図表 2 3 「Q27_5 ニュースは動画を使って調べる」の全体平均点



全体の合計点の平均値は、当てはまるは 6.00 (SD=1.86)、当てはまらないは 7.30 (SD=2.00) であった (図表 2 3)。

前述した通り、平均値の間には有意な差が見られた ($t(122)=-2.62, p<.05$)。このことから、動画を使ってニュースを調べる人ほど、漢字全般への理解度が低いということがわかる。

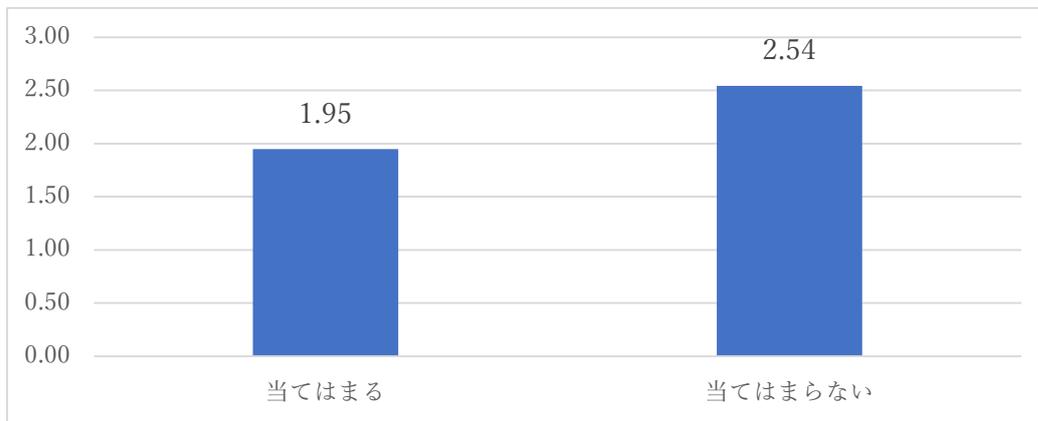
「常用漢字合計点」×「ニュースは動画を使って調べる」

「ニュースは動画を使って調べる」の割合は図表 2 2 の通りである。

常用漢字の合計点の平均値は、当てはまるは 1.95 (SD=0.85)、当てはまらないは 2.54 (SD=1.00)

であった（図表 2 4）。

図表 2 4 「ニュースは動画を使って調べる」の常用漢字平均点数



前述した通り、平均値の間には有意な差が見られた($t(122)=-2.44, p<.05$)。このことから、動画を使ってニュースを調べるひとは、常用漢字への理解度が低いということが分かる。

3-8-5

3-8-1～3-8-4より、ニュースを見る人ほど、漢字の理解度が低いというわけではないということが分かった。また、通学をしながらニュースを見ている人の漢字に対する理解度が低いということから、ニュースを過度に見る行動は漢字に対する理解度を低下させると考察できる。

3-9

仮説⑥「読書の利用方法によって「漢字の理解度」が変わるのではないだろうか」

3-9-1

読書に対する態度については、3-3で示した通り、マンガ・雑誌に対する態度では、「Q30_2_1 読書が得意（マンガ・雑誌）」が有意であり、マンガ雑誌を除くものに対する態度では「Q30_6_2 読書は生活に必要な物だと思う（マンガ雑誌を除く）」が有意であった。また、図書館に対する態度では「Q33_1 図書館に行くのが好き」が有意であった。

このことから、漢字の理解度に影響を及ぼす“読書に関する態度”は、「読書に対してプラスの印象があるか否か」という項目であるとわかる。

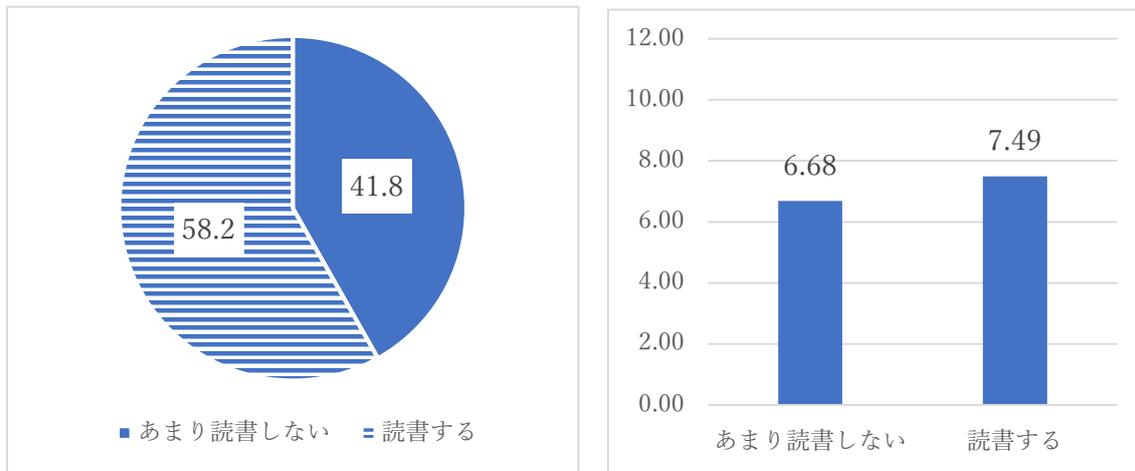
3-9-2

自由記述で回答を求めた各読書時間（紙・電子・オーディオブック媒体）の合計を総読書時間とする。総読書時間を「よく読書する」「あまり読書しない」の2つに再割り当てし、漢字の理解度（全体・常用・常用外・ネットの平均点数）に差があるかどうかを検討するために、対応のないt検定を実施した。その結果、全体合計点の平均点に有意差がみられた。

総読書時間の割合は図表 2 5 の通りである。

図表 2 5 総読書時間区分ごとの割合（左）

図表 2 6 総読書時間区分ごとの全体平均点（右）



全体合計点の平均値は、「よく読書する」は 7.49 (SD=1.99)、「あまり読書しない」は 6.68 (SD=1.93)であった (図表 2 6)。

前述した通り、平均値の間には有意な差がみられた ($t(96)=-2.01, p<.05$)。このことから、読書をする人のほうが全体の点数が高いということが分かる。

3-9-3

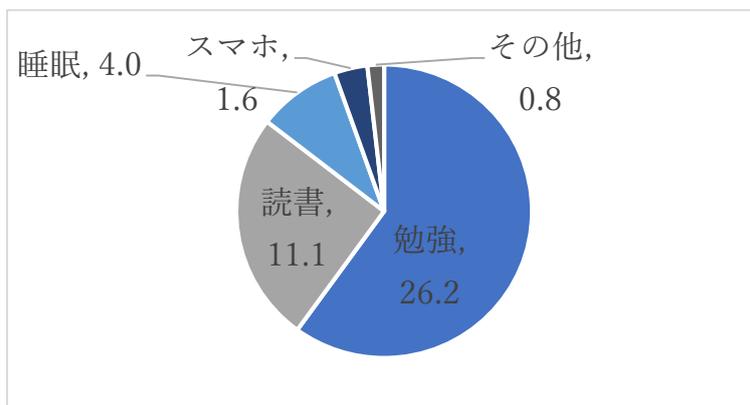
自由記述で回答を求めた図書館の利用時間を「よく利用する」「あまり利用しない」の2つに再割り当てし、漢字の理解度 (全体・常用・常用外・ネットの平均点数) に差があるかどうかを検討するために、対応のない t 検定を実施した。その結果、有意差はみられなかった。

このことから、図書館の利用時間は漢字の理解度に影響を及ぼさないということが分かる。

3-9-4

図書館の使用用途 (Q34) における度数分布表は以下の通りである

図表 2 7 図書館の使用用途の度数分布表



※この設問は複数回答不可となっており、項目は図表 2 7 の通りである。

Q34 (図表 2 7) の各項目間に、漢字の理解度 (全体・常用・常用外・ネットの平均点数) に差があるかどうかを検討するため、一要因の分散分析 (一元配置分散分析) を行ったその結果図書館の使用用途は有意ではなかった。

このことから、図書館の使用用途ごとにおける平均点の差はないとわかるため、使用用途は漢字の理解度に影響を及ぼさないと考察できる。

3-9-5

3-9-1～3-9-4より、「1. はじめに」で示した通り、読書が漢字の理解度に影響を与える部分は大きいと考えていたが、読書が漢字の理解度に与える影響は小さい推察できる。

3-10

その他の生活について

3-10-1

自由記述で求めた睡眠時間を「よく寝る」「まあまあ寝る」「あまり寝ない」「ほとんど寝ない」の4つに再割り当てし、漢字の理解度（全体・常用・常用外・ネットの平均得点）に差があるかどうか検討するため、一要因の分散分析（一元配置分析）を行った。その結果、睡眠時間は有意ではなかった。

全体漢字合計点数(F(3, 122)=1.71, N.S.)

常用漢字合計点数(F(3, 122)=.45, N.S.)

常用漢字外合計点数(F(3, 122)=.25, N.S.)

ネット漢字合計点数(F(3, 122)=.28, N.S.)

このことから、睡眠時間は漢字の理解度に影響を及ぼさないとということが分かる。

3-10-2

自由記述で求めた通学時間を「とても長い」「長い」「短い」「とても短い」の4つに再割り当てし、漢字の理解度（全体・常用・常用外・ネットの平均得点）に差があるかどうか検討するため、一要因の分散分析（一元配置分析）を行った。その結果、有意差は見られなかった。

全体漢字合計点数(F(3, 122)=.74, N.S.)

常用漢字合計点数(F(3, 122)=.80, N.S.)

常用漢字外合計点数(F(3, 122)=.26, N.S.)

ネット漢字合計点数(F(3, 122)=.91, N.S.)

このことから通学時間は漢字の理解度に影響を及ぼさないとということが分かる。

3-11 考察

3-3より、自ら行動（調べるなど）している人は漢字の理解度が高い傾向にあると推測できる。また、「最新の機種を使いたい」の項目に当てはまると答えている人は、点数が低い。自らの力ではなく、デバイスやその他の力を重視するマインドが漢字の理解度に影響を及ぼしていると推測できる。しかし、3-4-2より機能面を重視している人が多い。この点が今後の課題になってくると考えられる。

3-5より、スマートフォン使用自体が悪影響を及ぼしているわけではなかった。しかし、使い方が生活に浸透していると漢字への理解度が低下すると推測することができた。

音楽に関して、耳から歌や曲として情報を得る行為は漢字の理解度に影響を及ぼすのではないかと考え調査を行ったが、直接的な関係はなかった。

3-7-3より、動画もスマートフォン同様、生活に浸透しすぎていると、点数にマイナスの影響があると考察できる。しかし、動画の視聴時間に理解度は関係していなかった。

3-8では、ニュースを利用する（視聴する）人の方が漢字への理解度が低いという結果になった。別途でニュースの視聴時間ごとの平均点を比較すると、1日あたり10分程度見ている人が一番高い結果になったが、有意なほど差は確認できず視聴時間と漢字の理解度の間に法則性もなかった。また、ニュースにおいてもスマートフォンと同様生活に浸透しすぎていると理解度が下がる傾向にあった。

3-9から、参考にした論文と同様に読書する人の方が漢字への理解度が高いという結果になった。

3-11. まとめ

今回の目的は、“生活習慣”と“漢字の理解度”の関係性について、識字率（＝漢字テストの得点）と生活習慣の関係性という観点から、各媒体との付き合い方がどのように識字率に影響するかを考察し、「漢字の理解度からみる現大学生の適切な生活習慣」について検討するものである。

調査を行った結果、ほとんどの媒体において使用時間は関係なく、使用方法が漢字の理解度に影響を与えていると考察するに至った。ほとんどの媒体においても使用しすぎることが良くない結果を及ぼすということが分かった。また、「1. はじめに」で重点的に記述した読書については、読書時間を以外は漢字の理解度に大きな影響を及ぼしていないと考察できる。

ニュースについては、見ている人のほうが漢字の理解度が低いという結果になっているが、ニュースのジャンルについては調査を行っていなかったため、次調査を行う機会があれば、どのようなジャンルが漢字の理解度に影響を与えているのかということを中心に調査を行いたい。

4. 参考文献

- ・平井尊士/須藤葵/吉田和正/植松貞夫(2008)「ICT (デジタルコンテンツ) の活用が児童の学習効果や教師の指導力に及ぼす効果の一考察—神戸市立小学校における教科授業を事例として—」『兵庫大学論集』第13号
- ・森光義昭(2004)「情報社会の課題」『近畿大学九州短期大学研究紀要』第34号
- ・臼井博(2016)「小学校児童の読書関連動機の読書行動・国語学習スキルに対する影響—性差の分析を中心に—」『札幌学院大学人文学会紀要』第100号
- ・総務省 「第1部 特集 人口減少時代のICTによる持続的成長」
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/html/nd142110.html>
(最終アクセス: 2019. 10. 11)
- ・総務省 「第1部 特集 データ主導経済と社会変革」
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/html/nc111110.html>
(最終アクセス: 2019. 10. 11)
- ・全国大学生協同組合連合会 「第54回学生生活実態調査の概要報告」
<https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>
(最終アクセス: 2019. 12. 2)
- ・公営社団法人 全国学校図書館協議会 「学校読書調査」
<https://www.j-sla.or.jp/material/research/dokusyotyousa.html>
(最終アクセス: 2019. 10. 11)